

桐生茂准教授（医科学研究所附属病院 放射線科 医療情報部）
4月24日（火） 群馬県利根郡片品村

「原発事故と放射線量」

4月24日(火) 群馬県利根郡片品村において当研究所附属病院放射線科 桐生茂准教授による講演「原発事故と放射線量」が行われ、多数の片品村住民が参加して好評を得ました。東日本大震災における原発事故後、ホットスポットである地元の人の放射線への関心の高さにマッチした、不安に対応するようなご講演であったことが伺えます。講演会後には感謝の気持ちが伝えられ、清野所長からも桐生先生の活動が社会貢献していることを嬉しいかぎりですとのコメントがありました。

講演要旨： 今回の原発事故は過去の他国における事故よりも収束まで長期化することが予想されており、また放射線量がやや高い地域が距離的な離れている場所に分布していることが判明して、あらためて事故の深刻さが全国に知らしめられました。その一方、すでに放射線量が低下した場所も多くあるのにもかかわらず、引き続き過去に経験したことがない事態に対する不安が持続しています。このような状況においては、正しい知識が過度な不安を払拭し、健康的な生活を送るのに重要な役割を果たします。本講演では放射線や放射線障害についての基礎的な知識、環境および食品における放射線量について話し、特に食品については、測定され基準値以内であれば心配はないことを強調しました。さらに、原発事故以降、関心が増えているCTやレントゲン写真等による医療被ばくについても説明しました。



<写真：片品村役場提供>

桐生先生にお聞きしました： 「今回のご講演をしていかがでしたか？」

片品村は尾瀬国立公園を擁し自然に恵まれた土地ですが、放射線量がやや高値であった時期が短期間ありました。放射線量はすでに十分に低い値ですが、食物や薪などの放射線量を引き続き厳重に測定監視していることもあり、住民の方々の放射線への関心は大変高かったです。また、全国にさきがけた原発事故に伴う被災者受け入れや、積極的な水力発電によるクリーンエネルギーの実施など震災・原発事故に関わるキーワードが多くみられる場所で、このような場所で講演ができたこと、住民や役場の方々と議論できたことは私自身にとって大変よい経験でありました。